

研究・調査報告書

報告書番号	担当
67	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳) Iron, zinc, and alcohol consumption and mortality from cardiovascular diseases: the Iowa Women's Health Study 鉄、亜鉛、アルコール飲酒、と循環器疾患死亡 : (the Iowa Women's Health Study)	
執筆者 Duk-Hee Lee, Aaron R Folsom and David R Jacobs Jr	
掲載誌 (番号又は発行年月日) The American Journal of Clinical Nutrition 2005. 81(4): 787- 791	
キーワード 鉄、亜鉛、アルコール飲酒、循環器疾患死亡	
要旨 鉄と動脈硬化の関連について種々の議論があるが、いまだ解明されていない。そこで、鉄（前酸化物質）と亜鉛（抗酸化物質）の摂取量、アルコール（鉄代謝阻害物質）飲酒量と循環器疾患死亡について検討した。55歳から69歳の閉経後女性34492人を対象に食事摂取頻度調査を行った後、循環器疾患死亡をエンドポイントに15年間観察した。アルコール飲酒量を一日あたり10g以上摂取している女性では、ヘム鉄、非ヘム鉄、亜鉛摂取量を含め循環器疾患の危険因子を調整してもヘム鉄摂取量は循環器疾患死亡と有意な正の相関を認めた（ヘム鉄摂取量0.57g/d群に対して2.43g/d群の循環器疾患死亡の相対危険度は2.47倍）。非ヘム鉄摂取量はU字型の関連を、亜鉛摂取量と循環器疾患死亡は負の相関を認めた。アルコール飲酒量を一日あたり30g以上摂取している女性ではこれらの相関はさらに強く認められた。以上の結果より循環器疾患死亡においてヘム鉄の過剰摂取は有害である可能性が示唆され、アルコールのような鉄代謝を阻害する物質の存在下では亜鉛の十分な摂取が有益である可能性が示唆された。	